

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○7月14日～

先週は日本からの輸入品に対して8月1日から25%の関税を課すことを米国が発表しました。当初予定されていた24%から1%高くなりました。

今のところ大きな混乱はなく、25%の関税はどちらかという低い関税率にも見えます。

日本は参議院選挙を控えているため米国も選挙が終わるまでは日本との細かい交渉は急いでないのかもしれませんが。

選挙の結果が出た7月後半から色々な問題が噴出するかもしれません。

カナダの35%、ブラジル50%など想定していたよりも高関税になっている国も多く、実際に8月から高関税が実施されると貿易や実体経済にどれくらいの影響が出るのでしょうか。

また、EU(欧州連合)とメキシコの関税は30%になるようです。

さらに、米国は銅に50%、医薬品にも1年程度の猶予をおいた後に200%の関税をかけるということも発表しており、米国の実効関税率は20%を超え、1900年代初頭以来の高水準になるということです。

米国はジェネリック医薬品を中心に中国(1位)、メキシコ(2位)、インド(3位)カナダ(4位)からの輸入が多いということです。日本の製薬会社への影響はわかりませんが自動車、半導体、医薬品と製造業の多くに今後影響が出てくる可能性があります。

企業の悲観的な予想に反し、マーケットは今のところ不思議なくらい楽観的に見えます。

ビットコイン、銀なども高値更新の動きとなり、不動産も株も金融資産は軒並み高値圏にあります。ただし、マネーの動きはここ数年あらっぽくなっているため暴落や急騰が短時間に起こるリスクも想定しておく必要があります。

長期国債の動きが日本も不安定になっているため急激なリスク回避的の動きが夏に起こるかもしれません。昨年も8月初めに日本株の大暴落がありました。

4月の暴落以降、株価がずっと上昇していることもあり、そろそろ大きめの調整が起こってもおかしくありません。

難しいのは、為替の動きと株価や他の金融商品の動きが過去にないような動きになってきているため予測やリスク管理を慎重にしていけないということです。

金融政策も日銀は様子見の姿勢になる可能性があります。米国はFRBがトランプ大統領の圧力で利下げへの期待が高まってくるかどうかです。

関税でインフレ懸念があるのに利下げに動くとドル安と金融資産のさらなる上昇となるかもしれません。

このところ、円買いに偏っていたポジションが巻き返される動きもあり、ドル/円は上昇しています。この流れがいつまで続くかも重要ポイントになってきそうです。

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

### ● テクニカルで見た重要ポイントは？

#### <ドル/円>

ドル/円は7月に入ってから上昇が続いています。

147円台まで上昇してきましたが147円台半ばのレジスタンスを超えると148円台後半まで上昇する可能性があります。上値は147.6円を超えると6月23日高値の148円がメドに。

こども超えると5月高値の148.6円が視野に入ってきます。

さらに、148.7円を超えると150円のせへの期待が高まってきそうです。

下値は146.2円を割り込むと145.7円あたりのサポートが意識されそうです。

145円台を維持できれば比較的堅調な動きが続きそうですが、145円割れとなると円高リスクが再燃しそうです。

#### <気になるクロス円>

ユーロやオセアニア通貨が強い動きとなっています。

ただし、デギンドスECB(欧州中央銀行)副総裁がユーロ/ドルが1.2を超えてくる事に対してけん制発言をしていることもあり、ユーロの上値が重くなってくるかも注目したいです。

また、関税の発表で週明けからマーケットがどう反応するかも注視したいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

#### <今週のファンダメンタル？>

日本では5月機械受注、6月貿易統計、6月全国消費者物価指数などがあります。

米国では6月消費者物価指数、7月ニューヨーク連銀製造業景気指数、6月卸売物価指数、米地区連銀経済報告(ページブック)、6月小売売上高、前週分新規失業保険申請件数、7月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、7月NAHB住宅市場指数、5月対米証券投資、6月住宅着工件数、7月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではドイツとユーロ圏で7月ZEW景況感調査、ユーロ圏で5月鉱工業生産、6月消費者物価指数などがあります。

ほかには、中国で6月貿易収支、4-6月期GDP、カナダと英国で6月消費者物価指数の発表などがあります。